

*** 今日の健康（6月）***

＜先天性風疹症候群を防ぐために その2＞

先天性風疹症候群を持った赤ちゃんがすべての障害を持つとは限らず、前号で紹介した障害のうちの1つか2つのみを持つ場合もあり、気付かれるまでに時間がかかることもあります。妊娠2ヵ月頃までは目、心臓、耳のすべてに症状を持つことが多いですが、それを過ぎると難聴と網膜症のみを持つことが多くなります。妊娠20週以降では「異常なし」が多いと報告されています。

＜予防対策＞

風疹は、風疹ウイルスを含んだ飛まつ（咳やくしゃみ、会話、発語などで飛び散るしぶき）を吸い込んで感染します。手洗いやマスクの装着では、十分な予防手段ができるとは考えられていません。一度自然に感染するか、ワクチン接種することで免疫がつくられ、風疹にかかることがなくなるとされています。感染予防には妊娠の2ヶ月以上前までに、風疹ワクチンの接種が極めて有効です。



＜風疹抗体価検査、予防接種の助成制度＞

これから妊娠を希望する女性の方で、風疹ワクチンを受けているか不明な方、風疹にかかったことが確実でない方は、ご自分の風疹抗体価を検査する必要があります。

現在、多くの自治体では先天性風疹症候群の予防のために、主として妊娠を希望する女性を対象に、風疹の抗体検査を無料で実施しており、感染を防ぐのに十分な抗体価が認められない場合は、風疹ワクチンあるいは麻疹・風疹混合ワクチンを安価で接種出来ます。風疹の予防接種は、麻疹も一緒に予防できる「麻疹・風疹混合ワクチン」を受けることをお奨めします。

[詳しくはこちら（厚生労働省 WEB ページ）](#)（Ctrl キーを押しながらクリック）

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏